

事務事業名	両親学級事業			担当	健康福祉部 健康増進課 母子健康係			
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			電話番号	0285-83-8121		
施策名	06	健康づくりと適切な医療の確保			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	母子保健法				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 9 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1. 保健衛生費	3. 保健指導費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	会場：総合福祉保健センター 目的：（1）夫婦と一緒に学び、体験することで、夫婦で子育てする意識を高める （2）育児の知識・技術を学び、子どもに対する愛情を育む 内容 助産師講話、沐浴・育児体験							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 22年度実績 募集（広報、母子健康手帳交付時面接でPR実施） 教室、年4回開催。内容： ：助産師講話、沐浴・育児・妊婦疑似体験 23年度計画 H22年度と同様に実施（実施回数のみ2回増。年6回）		⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 名称 単位 19年度(実績) 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(見込) ア：参加者数 組 72 46 49 52 90 イ ウ エ オ						
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市内在住の妊娠20週以降の妊婦と夫		⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 名称 単位 19年度(実績) 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(見込) ア：妊娠届出者数 人 679 676 802 748 800 イ ウ エ オ						
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・積極的に子どもを産み育てる姿勢や子どもに対する愛情を育む・仲間づくりを推進し、育児不安の軽減と孤立化を防ぐ・妊婦と一緒に体験することで、夫婦で子育てする意識を高める。		⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 名称 単位 19年度(実績) 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(見込) ア：参加率（参加した夫婦/妊娠届出者数） % 10.6 6.8 6.1 7.0 12.0 イ ウ エ オ						
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 安全で安心な出産ができる。		⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 名称 単位 19年度(実績) 20年度(実績) 21年度(実績) 22年度(実績) 23年度(見込) ア：教室に参加し、安全で安心な出産ができた夫婦 組 72 46 49 52 90 イ ウ エ オ						
(2) 総事業費の推移		単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(見込)	
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金 千円	0	0	0	0	0
		県支出金 千円	0	0	0	0	0	
		地方債 千円	0	0	0	0	0	
		その他 千円	0	0	0	0	0	
		一般財源 千円	152	152	152	202	0	
	事業費計(A)	千円	152	152	152	202	0	
	人件費	正規職員従事人数 人	2	2	2	2	0	
		延べ業務時間 時間	76	76	76	101	0	
		人件費計(B)	千円	318	318	308	431	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	470	470	460	633	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成9年度から、妊娠を夫婦で喜び、ともに子育てする意識の啓蒙と、育児の正しい情報を伝えることを目的として開始。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成21年度：3回実施、22年度：4回実施
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	参加者の声：説明がわかりやすく、体験ができるので参加してよかった。専門家の話が聞けるので、相談もできてよい。出産の不安が解消され、お産が楽しみになった。夫が熱心にお風呂に入れる姿が嬉しかった。夫婦で育児していく心構えができてよかった。父親になる実感がわいた。赤ちゃんの誕生が待ち遠しい。妊婦の大変さがわかった等。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 母子保健法に基づき実施している。すこやかで安全な妊娠・出産・育児支援について取り組むことは、市の施策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 母子保健法に基づき実施しているので妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 母子保健法に基づき実施しているものであり、対象・意図も適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 広報に掲載する他、母子手帳届出時には全員にPRしている。また、個別通知でもPRしているため向上の余地なし。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない すこやかで安全な妊娠・出産・育児を支援することは不可欠であり、廃止できない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の事業費で実施しているので、これ以上削減できない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最小限の職員数で実施しているので、削減できない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 全妊婦とその夫を対象としているため、公平・公正である

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							